

世田谷たすけあいネットニュース



発行責任者:世田谷たすけあいネット 代表 大矢和親

謹賀新年



世田谷たすけあいネットは人の応援が欲しいとき「手をかして」と気軽に言える、「あったかな地域」づくりをめざしています。平成16年5月開始以来、高齢者の暮らしの困り事や悩みごとを解決すべく「無料で電話相談」にお応えして、情報の提供やボランティアの出張サポートを行っています。

あけましておめでとうございます。

皆様には、この輝かしい新年を健やかに迎えのことに、心よりお慶び申し上げます。そしてこの一年が、皆様にとりまして幸せな一年でありますようお祈り申し上げます。

昨年は、当世田谷たすけあいネットにとって、発足十年の節目の年にあたり、なにか記念の事業をと考えておりましたが、発足月の5月になって突然に事務所移転の話が湧き上がり、現在の北沢の地に7月1日付であたふたと移転致しました。

新しい事務所は、手狭ながらも世田谷区を中心部近くに位置し、活動のフットワークは格段に改善されました。この地の利を生かして、たすけあいネット設立の理念「お年寄りが安心して暮らせる優しいまちづくりの一助となる」の実現に向かって何とか前進していきたいものと思います。

昨年末で総人口87万4千人余が暮らす大世田谷区には、65歳以上の高齢者数は17万3千人余を数えます。前回の国勢調査によると、高齢者夫婦のみの世帯は、3万2千余世帯、また高齢者単身世帯数は4万世帯に上るそうです。あわせて7万余世帯、10万人を超える人が高齢者のみの生活をしている現状です。

これらの数字を見ると、私たち世田谷たすけあいネットの活動範囲は無限であると言っても過言ではありません。

皆様それぞれが多忙な生活を送られている中でボランティア活動をお願いしております。そこにはなかなか難しいものがありますが、皆様の熱意とご協力の下に「優しい街づくり」に一步でも前進してゆきたいと存じます。

代表 大矢和親

初めて見守りボランティアを経験して

数か月前から見守りボランティアをさせていただくことになりました。

私の担当する人は80代の男性で、最初お会いした時は、お元気そうなのに驚きました。もう一人のボランティアの人と交替で担当しています。しかし、元気そうに見えるとはいっても病気をもらって、時々そのせいか転倒します。

外で倒れた場合は救急車で運ばれますが、部屋で倒れたら危ないと思います。しかし、見守りボランティアは100%対応するというものではないので週1回でも効果があると思います。

私は行くと10分~15分くらい話をして帰ってきます。話すことで最近の心身の状態がわかりますし、どんな問題をかかえているかもだいたいわかります。しかし、おおむね聞くだけで、具体的な手を打つということもやってあげたいと思うことが時々ありますが、身体の方は病院でみてもらっていますし、その他の問題、例えば住居の問題では、長いこと騒音に苦しんでおられましたが、最近やっと解決しました。

非常に積極的な人で、医者からも注意されるほどあちこち歩き回っておられます。部屋の中で危ない状態にならないよう願っております。

ボランティア 佐藤義雄